

那賀町議会から お知らせ



那賀町議会：ホームページアドレス
http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/gikai/

令和2年12月定例会議

一般質問から

主な質問とこれに対する長や関係課等の
答弁の要旨は次のとおりです。

一般質問をすぐに視聴したい方は、議会中継
または議会後1週間ほどで放送される録画放送を
ご覧ください。



田村信幸議員

**コロナ・インフル同時流行に備えた学校
現場の取り組み状況と今後の対応につ
いて**

Q 二期期になって通常授業が実施されており、感染
予防策の徹底を県教委が通知しているが、町内小中学
校の感染対策の現状と課題について。また、今後のコ
ロナ・インフル同時流行への備えについて伺いたい。
福多士郎教育次長

A コロナ感染対策については、感染予防対策方針や
手順書を策定しており、各学校・各教育機関において
徹底した取り組みを行っている。
岡川雅裕教育長
A 教育委員会から休み前には、再度注意喚起をする
ような形で学校や保護者に文書で通知を行っていま
す。学業の保障については、学校と連携しICTの
機器なりを活用して、最高学年や注意をすべきところ
に対応したい。

**「第2回徳島木育サミット」で語られた
那賀町の取り組みについて**

Q 11月中旬、林業ビジネスセンターで開催された木
育サミットの冒頭挨拶で、町長は那賀町林業の現状と
展望を語っていたが、その思いをこの機会に町民にも
伝えていただきたい。また、サミット内で担当者が述

べていた「那賀町木育拠点構想」の概略を伺いたい。
橋本浩志参事

A 地域密着型の木育施設として県が県下20カ所に
設置した「木育広場」が那賀町内には3カ所あり、県
下の市町村では最多となっている。この「木育広場」
より規模が大きく県南部の木育拠点となるような施
設を町内の既存施設を改修し設置する計画。この木育
拠点を活用し、森林整備や木材利用、都市部との交流
などを進めていく。

坂口博文町長

A 木材価格が好調な時は、両親に連れられて小さい
ときから山仕事をさせられ、山に対する思いがあった
が、現在の子どもさんは、木の種類すら分からない状
況下であるので、森林・木の良さを理解していただく
ことが那賀町の林業発展に繋がるとの思いから木育
を推進している。

**その後の上那賀病院診療体制による課
題の明確化と今後の展望について**

Q 2019年4月1日より、看護師不足のため、平
日の夜間、土・日・祝祭日の24時間救急と外来の受け
入れができない状態が続いている。上那賀病院にかか
りつけ医がいる方が、夜間・土・日・祝祭日の救急要
請で阿南・小松島の大病院に搬送される現状への町の
対応策を伺いたい。
池田繁人保健医療福祉課長

A 一番の課題は、医療スタッフの不足、特に看護師
不足が急務である。これまでも看護師の奨学金制度や
住宅の整備、県内各学校から研修受け入れ、県、看護
協会との連携事業も行っている。町として数々の施策
を講じているが確保が難しいのが現状。住民の方にも
身近に看護師など医療従事者がおられたらぜひ声か
けし御助力をお願いしたい。

坂口博文町長

A 医師確保については、地域枠の医師数でほぼ対応
出来ているが、看護師については県内でも不足してい
る。県においても看護師育成を進めていただいている
が、病院間で連携をとれる体制を構築しつつある。今
後においても、救急医療の輪番制、当番制の制度を活
用し対応していきたい。命に関わる救急患者の対応は
している。



大澤夫左二議員

**那賀・海部・安芸風力発電事業、環境影
響評価方法書の説明会を聞いての結果
について**

Q 所信表明で示されたとおり、反対の立場を内外に
示し、事業計画中止そのものを早い段階で実現しても

らいたい。

坂口博文町長

A 山頂に国道並みの2車線の作業道を作ると、豪雨
による土砂流出は防げない。小見野々・長安口ダムの
土砂撤去を要望している中で、当事業には賛成できな
い。温室効果ガス排出量ゼロを目指す施策について
は、木材活用で貢献していく。

**国道沿いの立木除去を進め、観光道路に
することを指すことについて**

Q 60kmにわたる那賀川に沿って走る国道から、ダム
湖・清流・川の急峻な岸壁が見えるようにすれば、那
賀町特有の大きな観光資源となり、宣伝効果も大きく
なると思うがどうか。
上田善浩林業振興課長

A 近年、国道・県道等の各施設管理者による沿線整
備も行われているところだが、林業振興課では森林所
有者からの意向を伺い森林経営管理事業により間伐
等の整備を進めたいと考えている。しかし、これら施
設沿線の森林整備を実施するには、通行の安全対策
等、施設管理者との十分な協議も必要となると思っ
ている。

坂口博文町長

A 補助事業等の活用を含め、地権者の理解が得られ
る所については進めていきたい。

幾田博行にぎわい推進課長

A 現段階では観光面で事業を行う補助金もなく、町
単独で全部やるのは非常に厳しいが、良い事業があれ
ば、関係各位と協議しながら進めていけたらと考えて
いる。



福永敏行議員

小型バイオマス発電の可能性について

Q 那賀町の資源を活用した小型バイオマス発電シ
ステムを各地に展開することにより、FIT（固定価
格買取制度）利用はもちろん、排熱利用等による新た
な農林業の創造や雇用の創出が考えられるのではな
いか。
橋本浩志参事

A 国においては、農林水産省と経済産業省による
「地域内エコシステム」などFIT制度以外で、地域
の集落単位での木質バイオマス利用を進めるモデル
的な事業が展開されている。那賀町としても原料供給
体制も合わせて、検討していく。

坂口博文町長

A 原料となるチップ材の供給が必要。流通コスト削
減を含め、森林所有者の理解を得るための課題解決に
関係機関と協議を重ねている。小規模発電についても

検討していく。



連記かよ子議員

第8期介護保険事業計画について

Q ①第7期の保険料は県内最高の7083円で、基金も使い切り1億円の借入金もあるということであったが、第8期の状況について。②2025年、2040年を見据えたサービスの基盤、人的基盤の整備の対応について。③いきいき百歳体操などフレイル予防を各地域で行っているが、効果はどの程度あったのか。

池田繁人保健医療福祉課長

A ①借入金は令和2年度で返済予定。②第8期の目標年度の令和5年では人口は減少し、高齢化率は50%から52.5%になる、要介護認定者数は横ばいと予測。8期計画の中で地域で安心して暮らし続ける医療、介護、住まい等一体的な生活支援のため地域包括ケアシステムの推進を盛り込む。③2年目の事業で今すぐ効果が見えにくいですが、健康や予防に対する意識付けや社会参加の効果が出ていると思う。

国保の保険者努力支援制度の見直しについて

Q 特定健診、保健指導についてマイナス点を設定しメリハリを強化するとのあるが、本町への影響について。

湯浅正恵事務保険課長

A 保険者努力支援制度の令和3年度からの見直しにより、特定健診等の受診率の指標は、受診率の低い保険者へのマイナス点数が大きくなり、受診率の高い保険者との差が大きくなる。那賀町は受診率が高いため、配分が多くなり、交付金額が増えると考えている。

マイナンバーカードについて

Q 令和3年3月からマイナンバーカードが健康保険証として使えるようになるとのことだが、通信基盤の整備はどうなっているのか。また、どんなメリットがあるのか。

坂口博文町長

A デジタル庁創設に併せて、国民一人ひとりのカード活用によるポータルサイトを作るべく進めているので、未作成の方は取得にご協力をお願いしたい。

池田繁人保健医療福祉課長

A 国では、マイナンバーカードの健康保険証利用は令和3年3月から運用が始まる予定であり、令和4年度中に概ね全ての医療機関で導入を目指し、読み取り端末システムの早期整備を支援してゆくと聞いている。町でも、上那賀病院から整備し順次他の公立の

医療機関も整備する予定。



柏木岳議員

山村留学制度を木頭以外の他地域へ積極的に展開することについて

Q 今回の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改定で山村留学制度の木頭以外の地域への展開が計画されたが、どのように取り組むのか、具体的に示してほしい。

岡川雅裕教育長

A 来春から開催する中学校区ごとのコミュニティースクールにおいて協議を行いたい。受け入れをする地域の御理解と実際に子ども達の世話をしていただく方の確保が一番の課題と考えている。



山崎篤史議員

コロナ禍における町民の受診状況について

Q コロナ禍で「受診控え」による弊害が心配されていると聞いたが、那賀町の現状をお伺いしたい。

池田繁人保健医療福祉課長

A 町内の医療機関の受診は、前年度比20%と26%と軒並み減少している。原因はコロナだけでなく人口減にもあると考える。コロナ対策は、発熱外来を分離するなど様々対策しているので、調子が悪いときは我慢せず、医療機関に連絡してから受診していただきたい。

那賀町は子ども達にどう思われているかについて

Q ①2018年6月の一般質問で、野猿とジップラインを那賀町でできないかという質問をした。可能性はあるという答弁だったと認識しているが、現状はどうか。②2019年3月の一般質問で子ども議会での意見を受けて、那賀町には子どもが遊べる場所・遊具が少ないという現状を共有したが、子ども達の思いに応える、那賀町のワクワクする場所及び事業の現状を教えてください。

幾田博行にぎわい推進課長

A ジップラインの建設コスト、建築後の維持管理コストを考え、今の段階では那賀町の財政状況を考えると簡単に出来るとは言えない。良い補助金や民間企業の参入などがあれば考えていきたい。今後は色々情報収集をして幅広く考えていきたい。

幼保一元化・幼児教育について

Q 幼児教育は、義務教育に繋がりが、その子の一生の基盤となる重大な要素である。那賀町は相対的に子育て世帯に優しい事業が成されていると感じるが、幼保一元化に伴う縦割り行政の状況や、幼児教育の無償化への対応等、那賀町の今後を含む体制について伺いたい。

佐々野嘉代すこやか子育て課長

A 幼児教育については、今までどおり、幼保連携型認定こども園教育保育要領と保育所保育指針を基に取り組んでいく。また、昨年度より就学への接続を推進するため、那賀町園小連携推進協議会を立ち上げて活動を行っている。



新居敏弘議員

驚敷簡易水道の機能向上について

Q 昨年度に驚敷簡易水道施設将来計画作成の調査委託がされたが、どのような結果であったのか。また、来年度の予算等、今後の対応はどうするののか。

北谷禎文環境課長

A 将来計画では、10年後の驚敷地区水源区域の給水人口は減少を予測しており、現在の問題点は、湯水期の水不足の対策であり、地下水用井戸や工業用水の利用、施設の機能強化や水道管の更新の対策案より有効な対応を検討、予算化し実施したいと考えている。

介護保険料の軽減について

Q 来年度は介護保険料の見直しの年であるが、見直しはどうなっているか。県下一高い保険料であり、引き続き一般会計から繰入をして保険料の軽減を続けるべきと思うがどうか。

池田繁人保健医療福祉課長

A 今後第7期の結果を見ながら、第8期については最低現状の保険料を維持する見通し。保険料引き下げのための一般会計からの繰り出しは、国からも適正でないとして示されており、必要になれば県から借り入れし対処するのが適正な方法である。

国民年金保険料の納付率向上への対策について

Q 年金は老後の暮らしにとって欠かせないものであるが、未納の方もおられる。①過去5年間の納付率

の状況はどうか。②未納のままでと、万一障がい者となっても障害年金がもらえなくなるが、そういう方は何人おられるのか。③納付率向上は本来、国の仕事であると思うが、町民の暮らしを守るべき町として、納付率向上のためにできる対策をどのように考えているか伺いたい。

武田卓士住民課長

A 国民年金業務は日本年金機構が行っている。年金事務所からいただいた統計情報では、①80%前後で推移している。②把握していないとの回答であった。③「広報なか」への掲載、窓口での案内、相談等となる。